

歴史を望む展望施設



■コンセプト

歴史を望む展望施設

計画地は、開放性に優れ見晴らしの良い地形です。

しかし、どことなく360°全てが同じ景色に見える単調に感じます。

それは何がどこに見えるかが認識できていないからではないかと考えました。

古くから「一望する場所」として機能してきたこの場所からしか見えないものはないだろうか。

景色を建築で固定します。

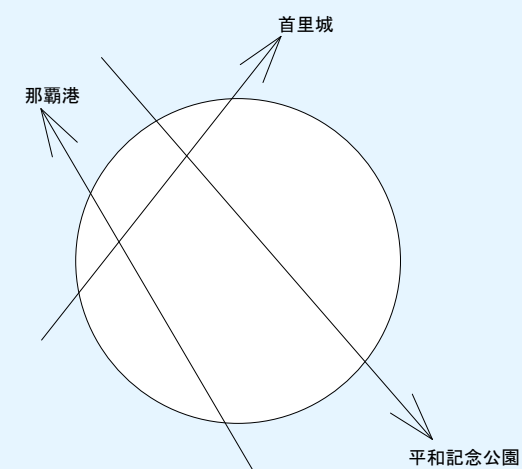
この展望施設から、沖縄県の歴史的に重要な場所を望むことで、観光や修学旅行で訪れた方々だけでなく、沖縄に住む方にも琉球王朝時代の歴史的遺産及び沖縄戦の負の遺産の両方を再考してもらえる施設を実現します。

■歴史

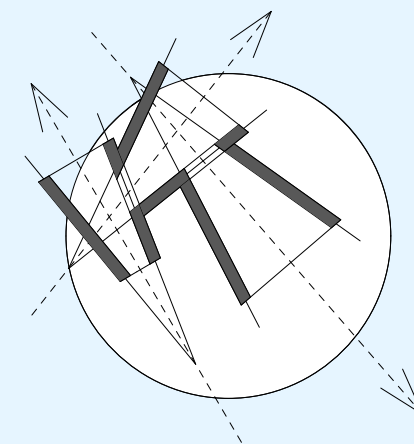


昔、この場所は、通信の拠点でした。烽火をあげて進貢船や異国船の入港を首里王府に知らせる「火番森(ヒーバンムイ)」があり琉球とアジア諸国を繋げる役割がありました。東シナ海、南部市街地などを一望できる地形特性のため第二次世界大戦末期には日本海軍の司令壕がおかれ、激しい戦場となった場所です。現在は、戦跡公園として整備され、子どもたちの楽しい遊び場・平和学習の場として沖縄県内外の多くの人々が利用しています。

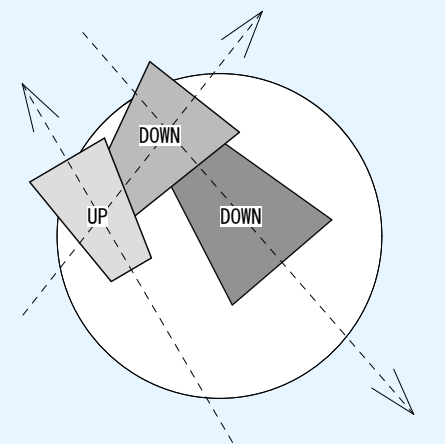
■ダイアグラム



計画地に
那覇港、首里城、平和祈念公園を目指す
3つの軸を取ります。

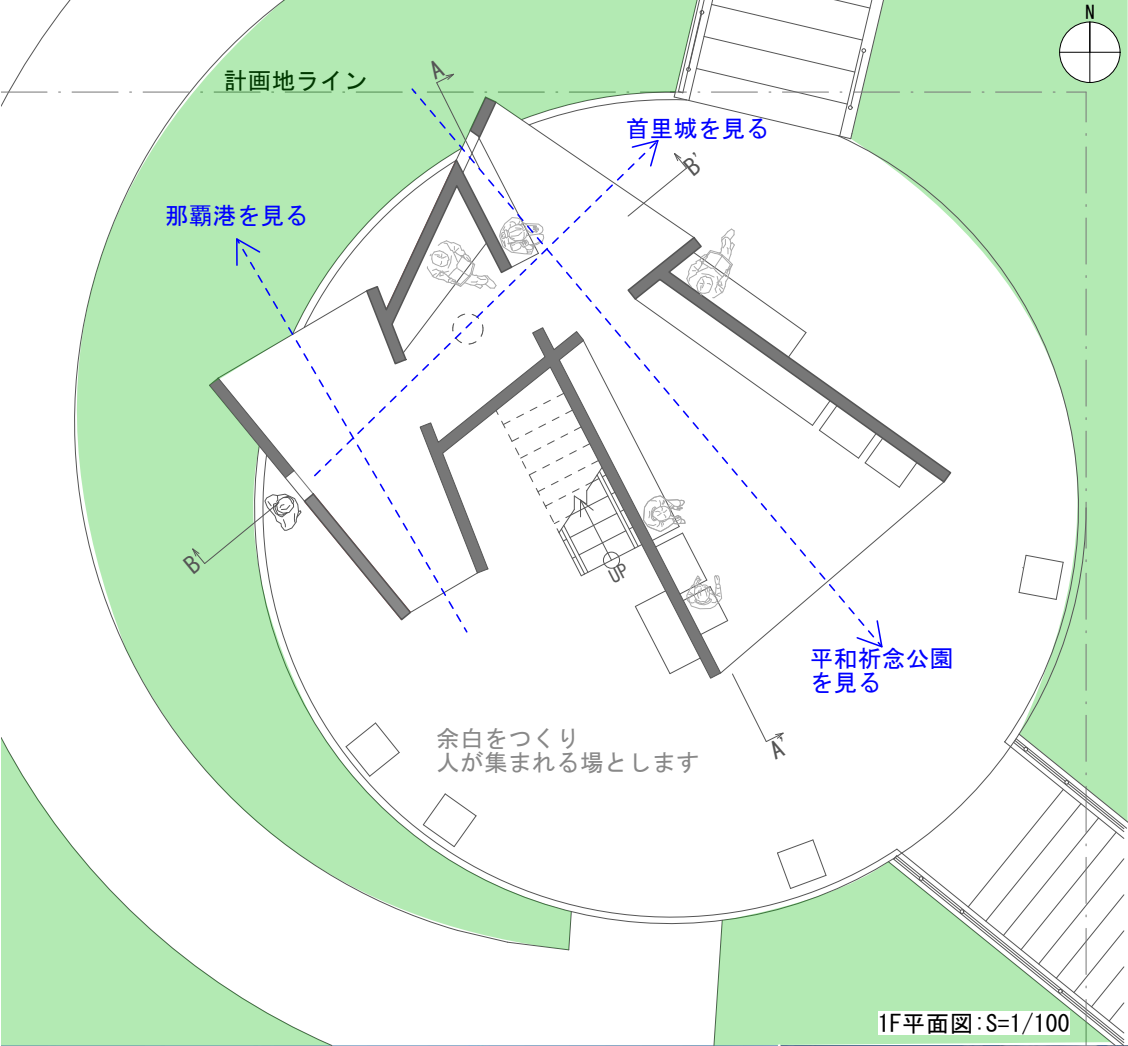


各軸を基準に、壁を設けます
重なる部分を繋げて
1つのボリュームにします

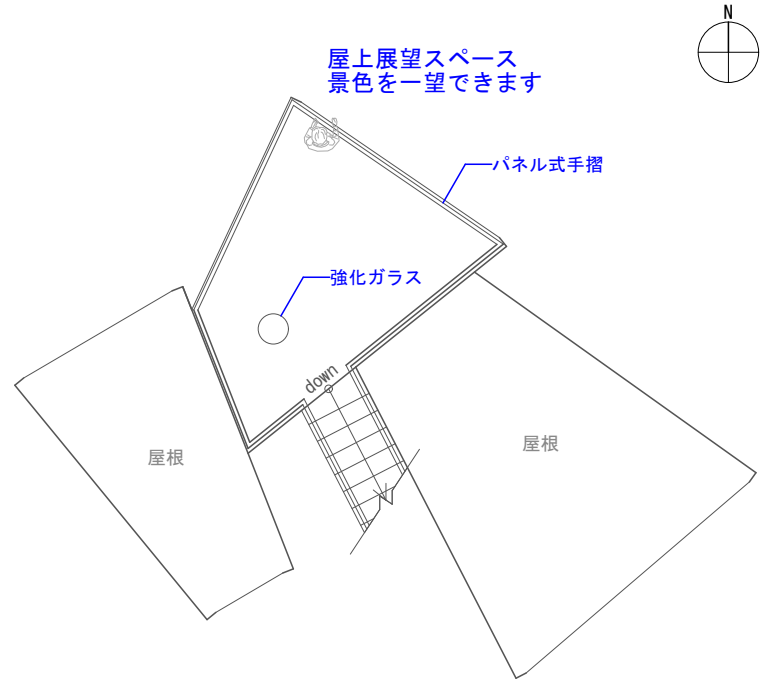


各軸を
強調するため
それぞれ異なる高さの屋根をかけます

■配置・平面計画



1F平面図: S=1/100



屋根伏図: S=1/100

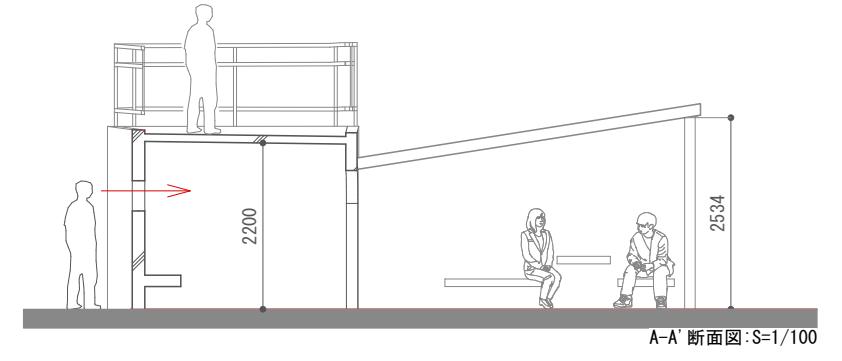
設計概要

・構造	: RC壁式構造	<仕上>
・面積	: 28.58m ²	壁 : コンクリート打放しの上 左官仕上
・階数	: 平屋	屋根 : コンクリート打放しの上 左官仕上
・最高高さ	: 3.52m	

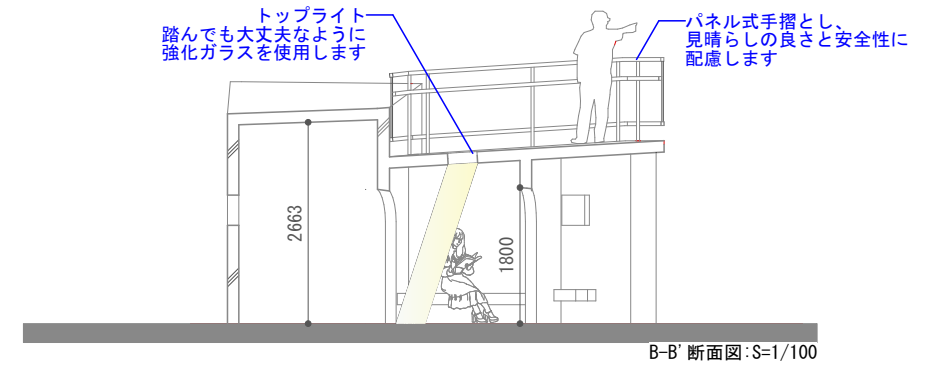
■断面計画

天井高さにバリエーションを持たせ、居場所に多様性をもたらします。暗い空間にはトップライトを設け明るさを保ちます。

軸線上の壁に開口を設けることで、より遠くの景色に意識がいくような装置とします。



A-A' 断面図: S=1/100



B-B' 断面図: S=1/100



北側から見る



南側から見る



東側から見る



西側から見る



那覇港方向を見る



首里城方向を見る



平和記念公園方向を見る



屋上の様子